

## V 総合学科の柱に位置付けている3科目の再構築

### 1 1年次「産業社会と人間」の取組

#### (1) 目的

- ① 2回のフィールドワークを通して自ら課題を設定し、解決する力を身につける。
- ② 4系列の体験学習を通して、自己の進路について考える。
- ③ 大学見学や企業説明会など各インターンシップの充実を図る。
- ④ 発表会を実施し、プレゼンテーション能力の向上を図り、発信力を養う。
- ⑤ 飯南高校の掲げる4つの力（対話力、追究力、創造力、発信力）を身につける。

#### (2) 年間計画

月	予定	実施
4月	なかまづくりワークショップ 産業社会と人間ガイダンス 第1回フィールドワークガイダンス	なかまづくりワークショップ 産業社会と人間ガイダンス いいなんゼミ発表動画視聴と目標作り
5月	第1回フィールドワーク事前学習①②	第1回フィールドワークガイダンス 第1回フィールドワーク事前学習①②
6月	第1回フィールドワーク キャンパスインターンシップ事前 キャンパスインターンシップ発表会	第1回フィールドワーク事前学習③ 第1回フィールドワーク キャンパスインターンシップ事前 キャンパスインターンシップ
7月	進路フェスタ	プレいいなんゼミ発表会見学 キャンパスインターンシップ発表会 進路フェスタ
9月	4系列の学びガイダンス 4系列の学び①～③	4系列の学びガイダンス (緊急事態宣言による計画変更へ)
10月	4系列の学び④ 第2回フィールドワーク事前学習①② 第2回フィールドワーク 遠足	4系列の学び①～④ 第2回フィールドワーク事前学習①② 第2回フィールドワーク
11月	第2回フィールドワーク事後活動 第2回フィールドワーク発表会	第2回フィールドワーク事後活動 第2回フィールドワーク発表会
12月	模擬体験授業	模擬体験授業
1月	かけ算プロジェクトガイダンス かけ算プロジェクト①②	かけ算プロジェクトガイダンス かけ算プロジェクト①②
2月	かけ算プロジェクト③～⑤ いいなんゼミ発表会見学 かけ算プロジェクト発表会	かけ算プロジェクト③～⑤ いいなんゼミ発表会見学 かけ算プロジェクト発表会
3月	プレいいなんゼミ発表会見学	

### (3) 今年度の活動内容

#### ① 4月14日 なかまづくりワークショップ

今年度は事前にユマニテク短期大学学長の鈴木建生氏と打ち合わせを行い、「まずは教員の一生懸命さが生徒に伝われば、良いスタートが切れる」との助言をいただき、それを目指してワークショップを開催した。始め生徒はまだ周りに遠慮がちな様子だったが、次第に表情もゆるみ、ゲームに勝つための意見を出し合ったり励まし合ったりと、一気にチームワークが良くなっていった。生徒の感想では、大勢で行うゲームで力を合わせたことが印象に残っていたようだった。友だちの優しさを感じ、楽しかっただけでなく、話したことがない生徒と話せたことが自信に繋がったとの感想もあった。また、教員に対しても好印象を持ち、「楽しく学校にいける」と確信できたと言う生徒もいた。今年度は再募集による入学生徒も多く、当初の希望と違うスタートを切る生徒がいる中、この活動が自分の進路への納得に繋がるきっかけにもなるような濃密で大切な時間だった。



#### ② 6月2日 第1回フィールドワーク

本校のフィールドワークは今年度で3年目を迎える。試行錯誤しつつ、継続的で有意義な活動にするため、過去の反省を活かしながら作業部会で議論し模索している。今年度のフィールドワーク先は、昨年度同様に飯南町は粥見、赤滝、深野、上仁柿、下仁柿、横野、飯高町は宮前、赤桶に設定した。目標としては、生徒がフィールドワークを体験し、楽しかったと実感できることを目指した。

そして過去の反省より、事前学習を充実させると生徒の当日の活動は活発になるという経験則を活かし、事前学習に6時間を割いた。2、3月中に地元の連携中学校からの入学生には、地域の魅力調べを「連携中学校入学内定者課題」として取り組ませていたが、このような課題のなかった連携外の入学生には、まず地域の調べ学習を自分ごととして捉えてもらうため、自分の住む地域の情報を調べて自分の体験を加えながらまとめさせた。この時間で連携中からの入学生には、旧松阪市や多気町地区で興味のあることを調べさせた。連携中ではさかんに探究活動が行なわれているためか、インターネットでサイトをいくつかのぞき、調べる目処を立て、紙にまとめる活動では質・量ともに目立つ存在であった。

フィールドワーク当日は天候にも恵まれ、各16班が事前に立てた計画をもとに

飯南・飯高の空気を約3時間味わった。飯南・飯高地域外からの生徒も普段と違う景色を楽しみ、きれいな川に自ら入り遊んだりした生徒もいた。また、そこへ近隣の方からバスタオルを持ってきていただき、フィールドワークや高校生の活動への支援のありがたさを実感することもできた。フィールドワークを終えて戻った生徒のほとんどが「楽しかった」、「地域の人がすごく優しかった」、「またフィールドワークに行きたい!」と言っていたのが印象的だった。



フィールドワークから戻ってくると、フィールドワークを通して各班が発見したものや興味をひいたものを班で協力して模造紙にまとめ、魅力マップを作成した。生徒たちは魅力マップ作成を行う中で、改めて飯南・飯高の魅力を再認識するとともに、フィールドワークに行く前に立てた自分の予想と結果を比較した。



多くの生徒がフィールドワークで新しい発見をし、神社や寺の成り立ちや地形に対して疑問を持つ生徒もいた。さらに地域住民とふれあう機会も多数あり、地域の

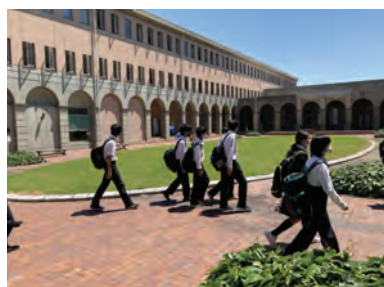
方々の優しさや地元愛を体感することができた。

完成した魅力マップについては、今年度は8月21～29日に地元の道の駅である茶倉駅に展示させていただいた。「地域の魅力発見！展」として新聞でも報道され、道の駅のお客様にアンケートで感想をいただいた。地元の方からの回答では、「近くの寺社の由来や魅力を、生徒の魅力マップから知り、あらためてぜひ訪れたい」との声があった。それらアンケートの回答を生徒たちにも伝え、自分たちが外部に影響を与え、人を動かしていることを実感させながら、第2回フィールドワークの探究活動への動機付けを行った。



### ③6月17日 キャンパスインターンシップ

1年1学期の段階で進路への目標を具体化し、充実した高校生活を送れるように上級学校の見学を行っている。関心のある学校を選び、事前に調べられることをまとめた上で、公共交通機関等を使い、通学の便も考えながら訪問した。実際、高校とは違うキャンパスの規模や雰囲気を感じ、視野を広げることができた。大学や短期大学、専門学校での専門教科の授業体験をして学ぶ楽しさを知ることができた。



#### ④7月15日 キャンパスインターンシップ発表会

キャンパスインターンシップ後には、体験したことで人に伝えたくなくなったことをパワーポイントにまとめた。発表会の前日には2年生の「うれしいなんゼミ発表会」を見学し、初の個人での発表会に臨んだ。13人程度のグループに分かれ、話す分量は多くなかったが、体験したことを自分の言葉で伝えることができた。

#### ⑤10月28、29日 第2回フィールドワーク

2回目のフィールドワークは前回は踏まえ、「飯南飯高地域をより深く知る」ことをテーマに1学期に学んだ方法で、新しいメンバーの班により新たな場所で活動を活性化させることをねらった。特に2日目は訪問のアポイントメントを生徒自身を取り、地域の人からたっぷり話を聞くことを目指させた。インターネットに掲載していない情報は、飯南飯高両地域振興局へ電話して地域の人を紹介してもらったり、地元生徒から聞いた情報を頼りにしたり、どの班もアポ取りにチャレンジしていた。

フィールドワーク当日の活動は事前に立てた行動計画をもとにスタートした。多くの生徒が地域の物や建物を見るだけではなく積極的に地域の方とふれあい、コミュニケーションを取り、そこから調べるだけではわからない情報などを得ることができた。





1日目の午後は学校に戻り、深めたことや新発見を各グループで再確認し、2日目の行動計画を立てた。各班ともに得た情報から、翌日の新しい活動に繋げるため、積極的に連絡を取ったりアポイントを取ったりと主体的に行動していた。



2日目も天候に恵まれ、飯南飯高地域の自然や景色の美しさを満喫できた様子であった。この日も午後は学校へと戻り、深めたことや体験してきたこと、その中で見えてきたことをまず個人でワークシートにまとめた。その後、各グループで振り返って個人でまとめた情報を共有し、パワーポイント作成など発表の準備にあたった。

⑥11月16日 第2回フィールドワーク発表会

前回フィールドワークでは班ごとの魅力マップを作成したが、今回は個人でパワーポイントを作成して発表を行った。各生徒がフィールドワークを踏まえ、深めた内容や感じたことに加え、発見した課題や解決策の提案などを発表に盛り込んだ。

生徒が作成した発表会用パワーポイント



開館 9:00 ~ 4:00  
休館日：土日祝  
入場料：無料

## 展示コーナー



## 深野和紙の歴史

和紙をすくこと  
松阪市飯南町深野地区では、安土桃山時代、松阪藩の御用紙として紙漉きが始まりました。

## 松阪銀札

江戸時代には紀伊州の藩札(紙幣)用紙として採用されたことにより「深野紙」は全国でも屈指の良質和紙としてその名声を築きました。



明治時代では、この歴史ある「深野紙」の伝統を守り、優れた製紙技術の保存等を目的に、昭和17年に「深野和紙保存会」が結成されました。

ここで復興された「深野紙」は三重県の伝統工芸品に指定されており、現在は紙の財産ともいえる指定工芸品としてのその価値を高めています。

## 和紙と洋紙のちがいは？

	和紙	洋紙
原料	三拍り、がんび、木の皮	広葉樹、針葉樹、木の屑
歩留り	少ない	多い
製法	手漉き	機械漉き
寿命	長い	短い
繊維長	長い	短い
品質(目肌)	荒くて不均一	滑らかで均一
品質(強度)	非常に強い	針葉樹は強い
品質(厚み)	かさばった紙	しまった紙
品質(印刷)	しにくい	しやすい
品質(折り)	繰り返しに耐える	繰り返しに弱い

## 深野は和紙漉きの最適地！



### なぜ？

1. 年間を通じて水の冷たい所
2. 水が豊富であること
3. 水に鉄分をふくんでないこと
4. 南向きの斜面地であること
5. 原料が近くにあること
6. 深野の里

## 深野和紙ができるまで

- 刈りとり ●煮て灰はぎ ●白皮にする ●煮る ●水さらし ●ちりとり
- 叩解 ●紙漉き ●水切り ●乾燥 ●仕上げ

(仕上げ以外は12月～3月に行う)

### 紙漉き体験

期間：11月～2月・要予約(0598-32-230)

1時間程度・色紙3枚で1,000～2,000円程度

※12月頃～2月頃には地元の子どものための卒業証書(作)の漉きが見られることがある！



私たちが3年生の時に卒業証書の紙を作りに行くらしい！

## 他にも魅力はたくさん！



稲荷山神社

深野のだんだん田



歩けば歩くほど色々な場所が見つかる！

魅力がたくさん

深野へLET'S  
GO!!!

## まとめと感想

- ① 地域の人と交流できた。
- ② F.W.班長として行動した。



⑦ 1月18日～2月22日 かけ算プロジェクト

一昨年度の「課題解決学習」から「かけ算プロジェクト」へと名前を変え2年目となる。取り組み方として、まずはフィールドワーク等で気になった対象を調べて選び、それを他の地域と比較し、比較する中で他生徒へ情報発信したくなるような事柄（かけ算の答え）を見つけ、提案するという流れである。特に今年度はプロジェクトが自分ごとになるように、対象の選定では「リアルな自分の関心事」を選ばせた。比較を含めたかけ算としては、目のつけ所のおもしろさが出るようにマインドマップを使い、自分の嗜好について意識させて取り組ませた。

問題はかけ算

かけ算プロジェクトの大事なポイント

地域の〇〇  
×  
何かと比較  
×  
**自分らしさ**

かけ算とは！  
自分のリアルな関心事で  
魅力を倍増させる

地域の魅力というより  
君の目のつけ所のおもしろさ

マインドマップで関心事を  
探ってみよう！

マインドマップをやってみよう！

思いつくことを書き出してつなぎ  
頭の中をすべてはき出す感じ

アイディア出しや  
考えの整理の極意！

質より量  
たくさん書ければ素晴らしい！

⑧ 2月22日 かけ算プロジェクト発表会

6つのグループに分かれ、かけ算プロジェクト発表会を行った。比較の対象やかけ算の内容も様々で、実のある発表会となった。

生徒が作成した発表会用スライド

飯南のお茶×大内山牛乳

このテーマを選んだ理由

自分は15年間飯南に住んでいて知らないことがおおすぎるのがわかった。そして、飯南のいいところを自分の好きなものと掛けたかった。だから飯南の産業について調べることになった。

飯南のお茶「深緑茶房」と、  
三重県の牛乳「大内山牛乳」を掛けてみる

僕は飯南のお茶と大内山牛乳をかけたり比較したり共通点を探してみた！

まず飯南のお茶と大内山牛乳の共通点は...

- ・三重県にある
- ・誰もが知っている飲み物である
- ・どっちもブランド品！
- ・僕がどっちも好きだから！

飯南のお茶と大内山牛乳をかけてみよう！

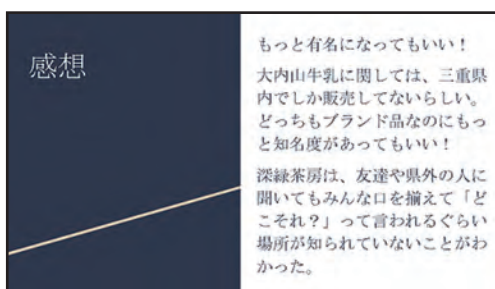
お茶と牛乳を混ぜるので緑茶ミルクティーなどがあるのですが、大体が粉末で混ぜられているので粉末じゃなく液体のお茶と牛乳で試して見ることにした。

実験

自分は粉末ではない液体のお茶を牛乳の中に入れて実験してみた。  
1対1の割合で液体のお茶と牛乳を混ぜてみたら...

**全部牛乳にかき消されましたw**

水分量が多いせいか牛乳が水っぽく感じ少しお腹を壊しました。  
なので、自分はやってないですが混ぜるときは粉末を使いましょう



発表会の様子



### ⑨今後の課題

今年度の「産業社会と人間」では、昨年度の取り組みを継承しながら、反省点や問題点を踏まえ改善しながら取り組んだ。また、地域を学び場とした活動を通して、地域に貢献できる人材の育成を目的として1年間活動してきた。

9月の緊急事態宣言を挟んで地域で活動させることは、その大義と地域との信頼関係なしには実現できなかったと思う。ただ、10月からは系列体験も圧縮された形で実施されたため、将来を見つめる系列選りと地域へ出る第2回フィールドワーク、そして校内を楽しむ文化祭が、一人の生徒の心の中で共鳴し、フィールドワークにも影響したようにも思う。

第2回フィールドワークでは、昨年度と違って1回目とは異なるメンバーで新しい場所を訪問させたため、生徒同士の関係性の構築に神経がいき、対象を深められなかったという反省点もある。ただ、班の人選のおかげで1回目より取り組み方が活性化され、改善した面もみられた。

また地域協働カリキュラム推進委員会では、今年度のフィールドワークが地域の魅力を発見していく中で、自分が面白いからより、有名だからなどの世間の価値観で計られたものなのではとの意見もあった。他人に共感してもらえないかもしれないが、ここが面白いと表現することは孤独で、芸術科目のようでもある。自分を肯定し、他人を認める雰囲気も大切になってくる。その萌芽に気づき、励ますことが、3年次「いいなんゼミ」の自分軸を太くしていくことに繋がっていくはずである。

## 2 2年次「キャリアデザイン」の取組

### (1) 目的

「産業社会と人間」と「いいなんゼミ」をつなぐ、地域課題解決型キャリア教育の中間点と位置付けている。企業見学会や外部講師による講演会での出会い、そしてインターンシップで仕事に触れて、リアルに地域社会で生きることを考える力を付けていく。また、修学旅行で得た知識を比較したり、プレいいなんゼミで考えを深め整理したりして、自己の在り方や地域との関わりを認識し、自分づくりを深めていく。

- ①将来への関心を高め、積極的に調べたり体験したりし、働くことへの意識を高め、意欲的に学ぶ態度を身につける。他者との対話を通じて学びを深め、コミュニケーションを意欲的にとる力を身につけTPOを判断し、適切な振る舞いを行う。
- ②体験したことや聞いたことを通じて、地域生活や働くことに対して考える力を身につけ、進路に対し追究し、聞いたり質問したりして思考を深め、報告書作成を通じて、自らを表現する力を身につける。
- ③体験した内容を整理し、内容を正確に伝えるためのプレゼンテーション技術を身につけ、調査・研究を通じて、自らの考えを適切に表現する。
- ④進路に対する知識を増やし、最適な進路実現に向けて情報を比較することができ、自らの長所や短所を知り、社会の構成員として自らの能力を発揮できる場を探せるよう、社会の仕組みを理解する。

### (2) 今年度実施内容

月	取り組み	内 容
4月	オリエンテーション 講話  プレいいなんゼミ テーマ設定	2年次の方針ガイダンス キャリアデザインガイダンス 保健講話・生徒指導主任講話・進路指導主事講話 自分の興味・関心について深く考え2ヶ月にわたる研究テーマを設定する
5月	プレいいなんゼミ	興味関心に基づき設定したテーマについて研究・調査・検証を行い、3年次「いいなんゼミ」へと繋げる
6月	プレいいなんゼミ	
7月	プレゼミ発表会  セルフプロデュース型 インターンシップ	グループに分かれ、2カ月間の成果を発表 自ら計画や準備、対象（職場体験、地域ボランティア、オープンキャンパス等）をプロデュース
8月	インターンシップ実施	夏季休業中に体験（今年度に限って1日～3日）
9月	～休校～	
10月	インターンシップの まとめ・発表	パワーポイントを使い作成してプレゼンテーションを行い、今年度はファシリテーター制を導入
11月	文化祭準備 人権講演会	舞台発表・展示・模擬店に分かれて実施 感染予防のためオンラインで実施

12月	企業交流会	地元企業 19 社に参加いただき、ブースに分かれて交流会を実施
1月	基礎力診断テスト	基礎力診断テストの実施とSHRの学びでOne-Week トライアルに取り組む
2月	企業見学会	新型コロナウイルス感染症拡大のため延期
	いいなんゼミに向けて いいなんゼミに向けて	3年次「いいなんゼミ」をより良いものにするために1学期に取り組んだプレいいなんゼミのテーマ設定を振り返り、日常生活の中からうまれる「なんでやろう?」という疑問から再度自分の興味・関心を考える
3月	本気の大人講演会	(有)上野屋の佐々木幸太郎氏より、新しい商品開発など「いいなんゼミ」に繋がる講演
	「いいなんゼミ」 テーマ決定	見つめ直した興味・関心をもとにグループに分かれ、様々な人との対話の中からテーマを設定する

### (3) 今年度活動内容

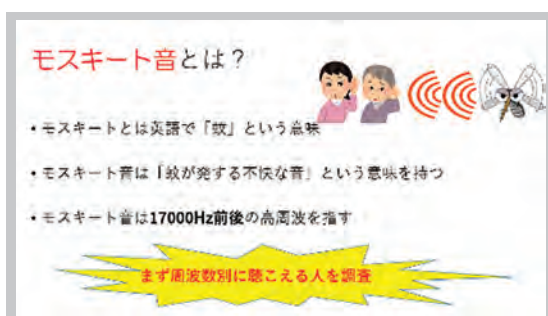
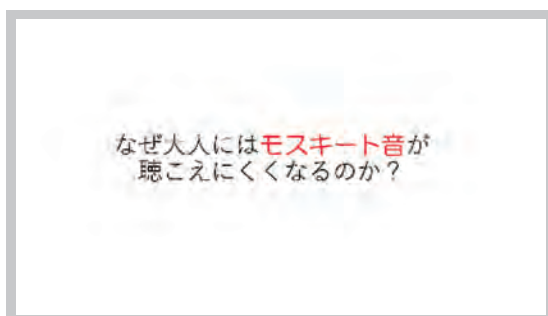
#### ① プレいいなんゼミ (4~7月)

例年3学期に行われる取組だが、今年度は1年次3学期に実施した「かけ算プロジェクト」との繋がりを考えて1学期に移行した。合わせて、例年よりもテーマ設定に時間をかけ、自分の興味・関心について5W1Hで考えてテーマを設定した。その後、8週間にわたってテーマについて調査・研究を行った。

～発表の一例～

選んだモノを 5W1H で考える

取り出されるテーマの例		
	質問	テーマの例
1	Who 誰が?	・
2	What どういう意味?	・
3	When いつ?いつまで?	・
4	Where どこで?	・
5	Why なぜ?	・
6	How どのように?どうやって?	・



### 調査①で分かった事

- 低い音（9000Hz）は30人中30人が全員聴こえた。
- 高い音になるにつれて、聞き取れる人数が減少していった。
- 特に13000Hzからは急激に減少していった。



### 調査②～年齢別～

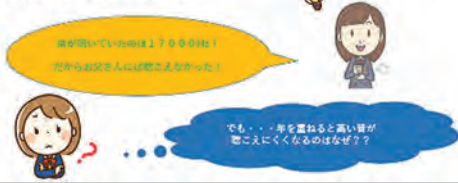
調査人数30人

年齢	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45	46～50	51～55	56～60	61歳以上
9000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
10000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
11000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
12000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
13000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
14000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
15000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
16000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
17000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30

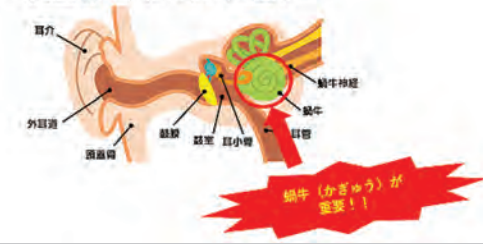
※が激しかった13000Hz以上を聞き取れたのは45歳以下ばかり

### 調査②で分かった事

- 高い音は若い人ほど良く聴こえ、年齢を重ねると聴こえにくくなっていった。



### 調査③～人の耳の仕組み～



### 調査③～人の耳の仕組み～

蝸牛の中に有毛細胞という音を感じ取る細胞があり、入り口周辺の有毛細胞が高い周波数を担当し、奥に行くにつれて低い周波数を担当する。

### 調査④～耳が聴こえにくくなる原因～

- 有毛細胞は入り口付近から傷つき壊れてしまい、壊れた細胞は元に戻らない為、高音から順に聴こえなくなる。

#### 有毛細胞が傷つく主な原因

①年齢とともに有毛細胞が死んでいく  
(加齢性難聴)

②ヘッドホンやイヤホンを大音量で聴く、ライブ会場で長時間大音量にさらされる  
(音響性難聴)

③工場や職場や工事現場の騒音に長時間さらされる  
(騒音性難聴)

### まとめ

- 年を重ねると高音が聴こえにくくなるのは、加齢性難聴が多い。

年齢	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45	46～50	51～55	56～60	61歳以上
9000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
10000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
11000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
12000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
13000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
14000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
15000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
16000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30
17000Hz	30	30	30	30	30	30	30	30	30

- 若い人でも12000Hzや14000Hzまでしか聞こえない人は、音響性難聴が原因かもしれないですね。

### 最後に！！～みんなに伝えたい事～

- モスキートは蚊
- 高周波のモスキート音が聴こえなくなったら、羽音に気づかず蚊に刺され放題・・・

なんてことはないので大丈夫！！！！

### 最後に！！～みんなに伝えたい事～

- なぜなら、一般的には20Hz～20000Hzまで聴こえる。
- 蚊の音は350Hz～6000Hzくらい（72歳の先生でも聴き取れるのでご安心を）

じゃあなんで、モスキート音は聴こえないの？

と、新たな疑問だけが残り・・・

ご清聴ありがとうございました！